

で、ちょっときびしい。左岸を捲き、小沢（水無し）を伝って降りられたが、訓練と思って、ザイルを取り出し、下降。この右岸にも鉱道あとがあった。ヘッドランプを出し中をのぞく。奥が深い。中に中に入ってみるが、ドロが厚く滑もっていて、ズボと入るのですぐ引き返す。ここから左沢出合まではすぐだった。さらに20分程下ってから左岸の登山道めざしてやぶをこぐ。（記・共戸幸務）
 下降開始（13:00）——左沢出合（14:50）

長沢
 小川支流無名沢

1982年5月26日

L和

中野第二トンネルを出ると、すぐ右側にドライプインがある。ここに車をとめて入溪。わらじをはいて小川を渡り出合より廻行開始。左岸には伐採用の道がある。

歩きはじめてすぐ砂防ダムがある。左岸より越えると、そのあとしばらくは平坦で何もない。小沢が2本合流するあたりから、左岸には伐採地が続く。中洲を過ぎ、兩岸がせまってくるようになると、左岸に10m程の滝（水はあまりない）があり、その先からは本流にも滝が出てくるようになる。まず2mの小滝の上に小沢が合流して2条滝のように見える2.5mの滝。ここは滝の左を直登するが、右の方が楽である。その上の2つの小滝（1m, 2m）は、私だけが直登して、2人は右岸を捲く。

ある。その上の2つの小滝（1m, 2m）は、私だけが直登して、2人は右岸を捲く。

トイ状なので、内面登攀の要領にて登る。次の3.5mは右岸を登り、つづく小滝も軽く越える。右岸より小沢が合流した所で小休止。

しばらくは何もない所を歩く。やがて兩岸が岸壁となった1.5mの小滝に続いて、いくつかの小さなナメを越えると、また滝が連続するようになる。まずはいずれも1m未満だが、5個連続する。そして2m, 8m, 3mと次々にパスする。右岸より小沢が2本合流する。この先も滝とナメが続く。途中昼食。このあたりシドキ(モミジガサ)がたくさんある。水も少なくなってきた。沢も最後は滝状のナメとなって、尾根近く、水が無くなるまで続く。12:00やおこぎに入る。15分程で尾根に出た。

(記)

出合(8:40)——沢終了(12:00)——尾根(12:15)

ワサビ沢 1982年8月15日
横川支流無名沢 L

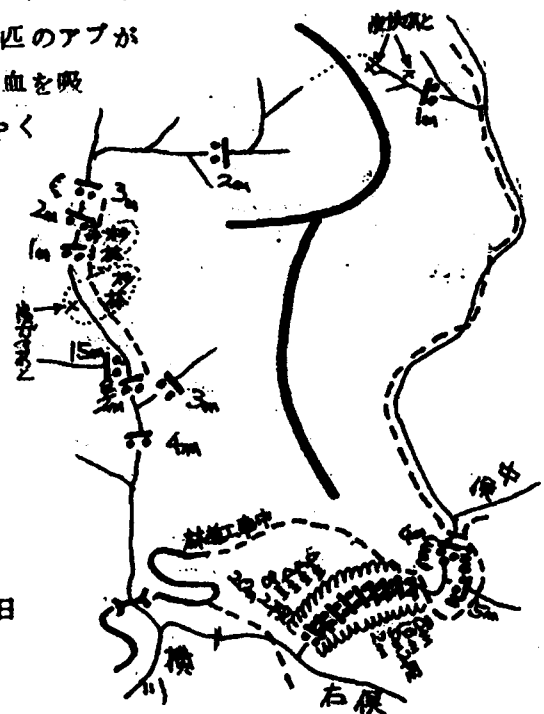
林道工事のため出合は様相が一変していた。くずされた土砂が沢をうずめてしまっている。何と雑な林道の造り方であろうか。緑の番人を自認する営林署であるが、我々の目からみれば緑の破壊者の1人である。

沢に入るととたんにアブの襲撃。数十匹のアブがむらがってきて、雨の上からでも平気で血を吸いにかかる。50匹ほど殺したら、ようやく静かになった。

平凡な沢である。4mの滝が出てきた時には、これならと期待させたのだが、あとが続かない。ダラダラと登り、いつのまにか源頭の湿原に付いていた。

(記)

出合(8:15)——終了(10:15)



1982年8月15日
横川左俣(下降) L

10時40分下降開始。急な斜面をブッシュ